

和声Ⅱ 和声の展開
HARMONY

岡島雅興
Masaoki Okajima

序

和声Ⅱは音楽大学における和声の基礎～中級クラスの教材として作成されたテキストである。

和声Ⅰで学習した3和音の延長線上に位置し、楽曲の分析と並行して本書を学習することにより、十分な成果を期待している。本書では不協和和音、変化和音の学習に充てている。

和音記号は現在我が国で定着した日本様式を採用しているが、学習者は国際的に通用する低音数字等にも十分に精通する必要があることは言うまでもない。

和声Ⅱ 和声の展開

〈目次〉

第2章 不協和和音 -- 5.	第3章 変化和音 ----- 36.
∇_7 の和音 ----- 5.	借用和音 ----- 36.
課題18. ----- 12.	(1)準固有和音 ----- 36.
課題19. ----- 13.	課題34. ----- 37.
課題20. ----- 15.	課題35. ----- 37.
課題21. ----- 18.	課題36. ----- 37.
課題22. ----- 20.	(2)ナポリの6の和音 --- 38.
課題23. ----- 20.	課題37. ----- 38.
課題24. ----- 20.	(3)ドリアのⅣの和音 --- 39.
∇_9 の和音 ----- 21.	課題38. ----- 39.
課題25. ----- 23.	課題39. ----- 40.
課題26. ----- 24.	課題40. ----- 40.
課題27. ----- 24.	(4)副 ∇ 和音 ----- 41.
課題28. ----- 26.	課題41. ----- 48.
課題29. ----- 26.	課題42. ----- 48.
課題30. ----- 27.	課題43. ----- 48.
副7和音 ----- 28.	課題44. ----- 52.
課題31. ----- 33.	課題45. ----- 52.
課題32. ----- 33.	課題46. ----- 52.
課題33. ----- 34.	変質和音 ----- 53.
付加和音 ----- 35.	(1) ∇ の和音 ----- 53.
	課題47. ----- 54.
	課題48. ----- 54.
	(2)上方変位する和音 --- 55.
	課題49. ----- 55.
	課題50. ----- 56.

第2章 不協和和音

◇7の和音

音階の各音度上に3度を累積した4個の構成音からなる和音を7の和音という。言い換えれば3和音の原型に、根音より7度上の音を加えた和音をいう。(和音記号の右下に7と記す)

V₇の和音

◇V₇和音

5度上の7の和音は自然倍音列の第4、5、6、7倍音を構成の基礎としており、特に属7和音と呼称され、その扱いにおいて他の7の和音と区別される。

◇V₇和音の低音位と和音表記

V₇和音は基本形と3種の転回形を持つ。(転回形はV₇の□内に転回指数を書くことにより示される)

C: V ₇	V ₇ ¹	V ₇ ²	V ₇ ³	授業時(転回指数)	a: V ₇	V ₇ ¹	V ₇ ²	V ₇ ³
V ₇	V ₇ ⁵	V ₇ ⁴	V ₂	数字付低音	V ₇	V ₇ ⁵	V ₇ ⁴	V ₂
7	6	+6	+4	フランス数字	7	6	+6	+4
+	♯				+	♯		

注…転回指数による表記は日本独自のものである。数字付低音の表記は不協和音程であることを示す7の和音の特徴である根音と第7音の関係を、バスからの音程で示したものがある。仏数字における+は導音を表わし、基本形は属7の和音、第1転回形は減五六の和音、第2転回形は六度導音の和音、第3転回形は三全音の和音と呼称されることがある。

◇V₇和音の機能

V₇和音は前述のように、発音体の振動の結果生じた自然倍音列上の和音であり、自然不協和和音として他の人為的不協和和音と区別される。そしてその強力な属音度機能により、V→Iという5度関連の自然解決により主音度機能へ溶解し、単一の調を確定する。(正規解決)

◇V₇和音の重複と省略

重複、省略は4個の構成音と4声体書式という一致により、原則として行わない。ただし基本形にあっては、次例のように根音を重複し、第5音を省略することがしばしば行われる。

C: V₇

その他、第1転回形、第3転回形にあっても、根音重複、第5音省略は前後関係の必然性から、場合により十分可能である。

C: V_7 V_7 V_7^b V_7^b

☆ V_7 和音の根音省略は、特に第2転回形においてはしばしば用いられるが、現段階では扱わない。

◇ V_7 和音の配置

原則として各低音位ごとに、バス以外の3種の構成音を上3声に加えた密集、または開離配置である。ただし、第5音は前述したように省略されることがある。(次例(a),(f),(g))

(a)基本形 (第5音省略形)

(b)基本形 (完全形)

C: V_7 V_7

(c)第1転回形

(d)第2転回形

C: V_7^b

C: V_7^c

(e)第3転回形

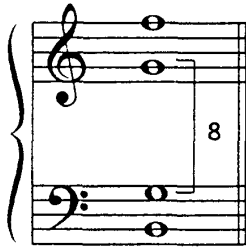
(f)例外的配置 (1転) (g)例外的配置 (3転)

C: V_7^d

C: V_7^b V_7^d

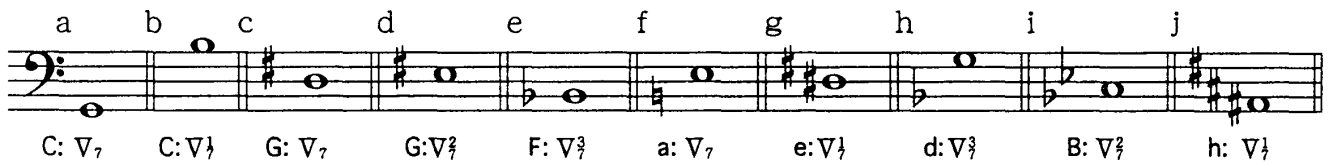
★禁則

第1転回形における例外的な根音重複にあって、重複する根音を内声2部に8度関連に配置することは避ける。(3和音の第1転回形における内声の根音オクターブ重複の禁則に準ずる)



C: V₇

*練習問題 与えられたバスの上に、それぞれ異なる4種の配置を試みなさい。



◇連結(1)先行和音からV₇和音の連結

7の和音にあっては第7音は予備を必要とするが、V₇和音においては、それが自然倍音列により構成されているため、第7音の予備を必要としない。しかし、先行和音にその音が含まれている場合は、V₇→VIの場合を除き、第7音は予備されることが望ましい。

(a)良好

(b)可能ではあるが(a)に劣る。

(c)良好



C: II V₇



C: II V₇ I



C: II V₇ VI

★禁則

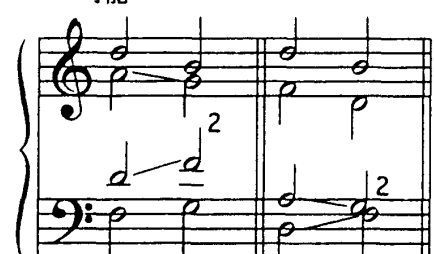
1. 根音と第7音により、並達2度が生じることは禁じられる。(反行によるものは可能)

禁則

可能



C: IV¹ V₇ IV¹ V₇ II V₇ I V₇



C: II¹ V₇ II V₇

2.根音と第7音により、並進7度、9度が共に跳躍進行の結果生じることは禁じられる。
 (1声部が順次進行する場合、及び反進行の結果生じた場合は可能である)

禁則

C: VII V₇ VI V₇ I V₇

可能

C: IV V₇ II V₇ I V₇

◇連結(2) V₇和音の正規解決(限定進行音)

V₇和音は属音度機能を有するため、主音度機能へ導かれる。これをV₇和音の解決という。
 正規解決においては、V₇和音の2つの限定進行音のうち、第7音は2度下行、第3音の導音は2度上行させる。ただし、V₇[♯]→I[♯]の連結において、第7音の解決に例外が見られる。(後述)

☆バス定型

C: V₇ I V₇ I V₇ I V₇ I[♯] V₇ I[♯]

§.基本形(V₇)

C: V₇ I V₇ I a: V₇ I V₇ I
 D T D T D T D T

V₇和音の基本形は、V和音と同様にI²と合体して一つの属音度機能を有し、主音度機能に導かれることが、特に終止において多く見られる。

C: I² V₇ I I² V₇ I I² V₇ I
 D T D T D T

V₇ 和音が V からひきつづいて用いられることも見られる。

C: V D V₇ I T V D V₇ I T

§.第1 転回形 (V₇¹)

V₇¹→Iの連結において、最も良好な V₇¹和音の配置は第7音高位の密集、または開離配置である。

C: V₇¹ D I T V₇¹ D I T a: V₇¹ D I T V₇¹ D I T

その他、根音高位のV₇¹(e)(g)、第5音高位のV₇¹(f)(h)等が用いられる。ただし、第5音高位のV₇¹が根音高位のI度和音に進行することは(i)(j)、外声間の主音重複から、鈍重な響きをもたらすので濫用しない。

C: V₇¹ D I T V₇¹ D I T V₇¹ D I T V₇¹ D I T i 純重 a: V₇¹ D I T j 純重

V₇¹ 和音が弱拍において、V¹ より導かれることは極めて自然であり、しばしば用いられる。(k)(l)

C: V¹ D V₇¹ I T V¹ D V₇¹ I T

▽V₇→I の連結においてソプラノに置かれた第5音が2度上行して第3音重複のI度和音をもたらすことは、中間楽節における外声間の主音重複による停滞の印象を避けるための有効な手法となる。(m)

m

C: V₇ I
D T

§. 第2 転回形 (V₇)

V₇ は I、または I' へ進行する。

▽V₇→I の連結において、第7音高低位(a)(c)、根音高位(b)(d)のV₇の配置が良好であり、第3音高位のV₇は、その解決進行において、外声間に主音(根音)重複のI度和音配置(e)(f)となり、楽節の間においては使用に際し、外声間の順次反進行等の慎重な扱いを要する。

a b c d e f

C: V₇ I V₇ I a: V₇ I V₇ I C: V₇ I a: V₇ I
D T D T D T D T D T D T

▽V₇→I' の連結においては第3音高位(g)(i)、根音高位(h)(j)のV₇の配置が多く用いられる。その際、内声に位置する第7音は下行限定進行音にもかかわらず、例外的に2度上行する。これは解決和音であるI'の第3音重複を避けるために有効な手法である。

g h i j k

C: V₇ I' V₇ I' a: V₇ I' V₇ I' C: V₇ I'
D T D T D T D T D T D T

★禁則

V₇ 和音の内声にあって、根音と第7音を2度関連に配置し、第7音を2度上行させることは、2度→1度という不良進行となるため禁じられる。(上例 k)

$\nabla V^{\frac{3}{2}} \rightarrow I^1$ の連結において、 $V^{\frac{3}{2}}$ の第7音を正規の下行限定進行音として用いると、必然的に I^1 が第3音重複となる。そのため、 I^1 が後続和音 (II^1 、 $V^{\frac{3}{2}}$) に進行する際に、バスと下行限定進行を担当した声部とが、反行で順次進行を継続することが条件となる。(1)(m)(n)

C: $V^{\frac{3}{2}}$ I^1 II^1 $V^{\frac{3}{2}}$ I^1 II^1 $V^{\frac{3}{2}}$ I^1 $V^{\frac{3}{2}}$
 D T S D T S D T D

§. 第3転回形 ($V^{\frac{3}{2}}$)

∇ 下行限定進行音である第7音をバスに持つ $V^{\frac{3}{2}}$ は必然的に I^1 へ進行する。

根音高位、第3音高位、第5音高位のいずれも良好な配置である。(e)は導音の代理解決による。

根音高位

C: $V^{\frac{3}{2}}$ I^1 $V^{\frac{3}{2}}$ I^1 $V^{\frac{3}{2}}$ I^1 $V^{\frac{3}{2}}$ I^1 $V^{\frac{3}{2}}$ I^1 $V^{\frac{3}{2}}$ I^1
 D T D T D T D T D T D T

第3音高位

C: $V^{\frac{3}{2}}$ I^1 $V^{\frac{3}{2}}$ I^1
 D T D T

第5音高位

C: $V^{\frac{3}{2}}$ I^1 $V^{\frac{3}{2}}$ I^1 $V^{\frac{3}{2}}$ I^1
 D T D T D T

$\nabla V \rightarrow V^{\frac{3}{2}}$ 、 $I^2 \rightarrow V^{\frac{3}{2}}$ の連結が弱拍に経過的に扱われる場合、可能である。(a)(b)

C: V $V^{\frac{3}{2}}$ I^1 I^2 $V^{\frac{3}{2}}$ I^1
 D T D T

◇連結 (3) V₇ 和音の不正規解決 (同一調)

V₇ の基本形は I 度和音以外に T 和音である VI 度和音へ解決することがしばしばある。この際、V₇ は 4 種の構成音を持つ完全和音であることが望ましく、限定進行音である第 3 音 (導音) は 2 度上行、第 7 音は 2 度下行させ、第 5 音は 2 度下行させる。その結果、VI 度和音は V → VI の連結時と同様に、必然的に第 3 音である主音が重複される。

C: V₇ VI V₇ VI V₇ VI V₇ VI a: V₇ VI V₇ VI V₇ VI V₇ VI

▽導音の代理解決

上例(c)において、アルトの導音が主音に進行せず、2度下行することがある。(a) 短調においては増2度進行を生じるため不可能となる。(b)

C: V₇ VI a: V₇ VI

▽V₇ → VI の連結において、V₇ 和音の第 5 音省略形が用いられることがあるが、和音配置によっては解決進行が不可能となるので注意すること。(d)(g)

C: V₇ VI V₇ VI V₇ VI V₇ VI a: V₇ VI V₇ VI V₇ VI

課題18.与えられたバスを基に、それぞれ異なる2種の配置で連結を試みなさい。

a: V₇ I G: V₇ I e: V₇ I F: V₇ VI d: V₇ I[♯] D: V₇ I

g h i j k l

h: $V_7^{\sharp} I^1$ B: $V_7 VI$ g: $V_7^{\sharp} I^1$ A: $V_7 I$ fis: $V_7^{\sharp} I^1$ As: $V_7^{\sharp} I$

課題19. 与えられたバスを基に、それぞれ異なる2種の配置で連結を試みなさい。

a b c d e

e: $I^1 V_7^{\sharp} I$ B: $IV V_7^{\sharp} I^1$ c: $II^1 V_7 VI$ fis: $I V_7^{\sharp} I^1$ E: $IV^1 V_7 I$

◇ V_7 和音を含むバスの和音分析

i ii iii iv v vi vii

C:	I	II	III	IV	V	VI	※ VII
	VI^1	※ VII^1	I^1	II^1	III^1	IV^1	※ V^1
	IV^2	V^2	VI^2	VII^2	I^2	II^2	III^2
		V_7^{\sharp}	V_7	V_7	V_7		V_7

※…VII, VII¹ は現段階では扱わない。ただし、VII² は経過和音として弱拍に置かれる場合、節度をもって用いてよい。

◇バス課題の実施方法

ex.

C:

1. 終止分析を行う。

4小節目……半終止 (V_7 は用いず、 V を充てる)

10小節目……全終止 ($V_7 \rightarrow I$ を多くの場合に充てる)

C: V I V_7 VI V I^1 V_7^{\sharp} I V_7^{\sharp} I^1 I^2 V_7 I

D T D T D T D T D T D T

2. 終止以外の箇所のD→Tの分析を行う。 V_7 とその転回形を用いることにより、旋律線を豊かにする。

C: V_7^{\flat} I V_7 VI V I^1 V_7^{\sharp} I V_7^{\sharp} I^1 I^2 V_7 I

D T D T D T D T D T D T

3. D 和音の先行和音として S 和音を置くことが可能であればカデンツ第 2 型を設定する。
 また冒頭和音として I 度和音を設定する。

C: I V₇ I V₇ VI II¹ V I¹ V₇ I V₇ I¹ IV¹ I² V₇ I
 T D T D T S D T D T D T S D T

4. 4 声体を実施する。

C: I V₇ I V₇ VI II¹ V I¹ V₇ I V₇ I¹ IV¹ I² V₇ I
 T D T D T S D T D T D T S D T

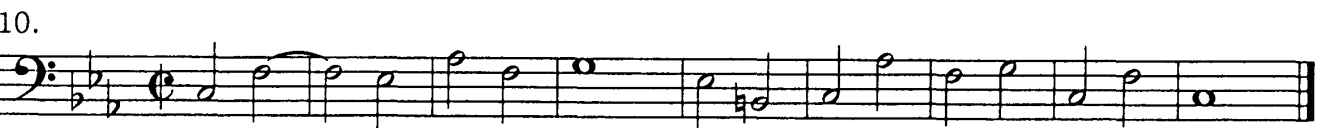
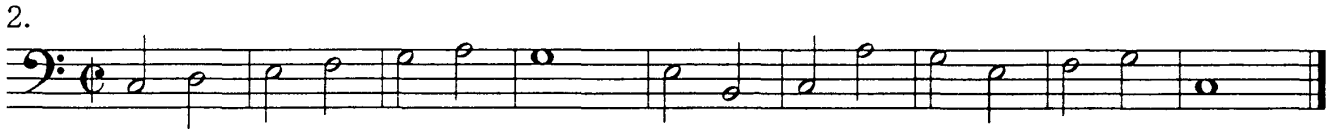
5. 共通音をまとめる。

C: I V₇ I V₇ VI II¹ V I¹ V₇ I V₇ I¹ IV¹ I² V₇ I
 T D T D T S D T D T D T S D T

他の実施例を示す。

C: I V₇ I V₇ VI IV V I¹ V₇ I V₇ I¹ IV² I² V V₇ I
 T D T D T S D T D T D T S D T

課題20. 次のバス課題を実施し、カデンツと終止を分析しなさい。



◇ V₇ 和音を含む D-T のソプラノ定型

* 既述 (I 巻 p.26,36) の定型に V₇ 和音によるソプラノ定型を加える。

順次進行定型

a b c d

[I⁰] V₇ [I V₇ [I V₇ I V₇ [I

C: [VI (V₇ I) *3 [VI V₇ I

[I^(u)] V₇ I¹ V₇ I¹ (V₇ I) *4 V₇ I

[I^(u)] V₇ I^(u) *1 (V₇ I) *2 V₇ I^(u) *4

保留定型

e

V₇ I

C: V₇ I

V₇ I^(u)

V₇ I

※1. ...p.10(e)(f)参照 ※2. ...p.9(i)(j)参照。 ※3. ...p.10(m)参照。 ※4. ...I¹において第3音重複となる。

跳躍進行定型

f g h i j k

V₇ I V₇ [I *1 V₇ I¹ V₇ I V₇ I¹ V₇ I¹ *2

C: V₇ I¹ [VI V₇ I¹ V₇ I¹ V₇ I¹ V₇ I¹ *2

V₇ I¹ V₇ I V₇ I¹ *2

V₇ I¹

※1. ... V₇ — I の連結において、外声間の反行による連続8度は例外的に可能となる。(a)(b)

※2. ...ソプラノ⇄アルト間の1オクターブ以上の音程の開きは例外的に認められる。(c)(d)(e)

可能であるが、節度を持った使用を要求される例

a b c d e

C: V₇ I V₇ I V₇ I¹ V₇ I¹ V₇ I¹

◇ ソプラノ課題の実施方法

ex.

C:

1. 終止分析を行う。4小節目に半終止(V)、9小節目に全終止(S-V₇-I)を設定する。

C: V V (S) V₇ I

2. D-T の定型分析を行う。複数考えられる場合は前後の関連を考慮し、滑らかなバスを書く。

C: $\begin{matrix} V\frac{1}{2} & I & V_7 & VI & V & & V_7 & VI & V\frac{3}{2} & I^1 & & V_7 & I \\ D & T & D & T & D & & T & D & T & D & T & D & T \end{matrix}$

3. D 和音の先行和音として S 和音の設定が可能な場合は、T 和音に優先して S 和音を設定する。
また冒頭和音に I 度和音を設定する。

C: $\begin{matrix} I & V\frac{1}{2} & I & V_7 & VI & II^1 & V & & I & V_7 & VI & IV & V\frac{3}{2} & I^1 & IV^1 & V_7 & I \\ T & D & T & D & T & S & D & & T & D & T & S & D & T & S & D & T \end{matrix}$

4. 4 声体を実施する。

C: $\begin{matrix} I & V\frac{1}{2} & I & V_7 & VI & II^1 & V & & I & V_7 & VI & IV & V\frac{3}{2} & I^1 & IV^1 & V_7 & I \\ T & D & T & D & T & S & D & & T & D & T & S & D & T & S & D & T \end{matrix}$
 K1 K1 K2 K1 K2 K2

他の実施例を示す。

C: $\begin{matrix} I & V\frac{1}{2} & I & III & VI & IV & V & & I & V^2 & I^1 & IV & V_7 & VI & IV & V_7 & I \\ T & D & T & D & T & S & D & & T & D & T & S & D & T & S & D & T \end{matrix}$
 K1 K1 K2 K1 K2 K2

課題21. 次のソプラノ課題を実施し、カデンツと終止を分析しなさい。

1. 
2. 
3. 
4. 
5. 
6. 
7. 
8. 
9. 
10. 
11. 

◇ vii 度上の和音 VII^o, ∇_7

vii度上の和音は次に進行する和音により用法が区別される。用例は少なく、反復進行の際に用いられる程度であるが(d)、5度関連により、III¹ に解決進行する vii 度音を根音とする純粹の3和音である VII 度和音と、I⁽¹⁾ に解決進行する ∇_7 和音の根音省略としての機能を持つ ∇_7 との2種である。

	基本形	第1 転回形	第2 転回形
3和音 (VII ^o)	VII	VII ¹	VII ²
∇_7 の根音省略形 (∇_7)	∇_7	∇_7^1	∇_7^2

注… ∇_7 和音のローマ数字に付された斜線は根音省略形であることを表わす。

◇ 3和音としての機能を持つ VII, VII¹

VII→III, VII→III¹, VII¹→III

§. 5度関連により III 度和音に進行する VII 度和音は D 和音の機能を持つ。(I - p. 9 参照)

この際、VII^o の根音は導音としての機能を持たないため、重複が可能となる。(a)(b)(c)(d)

C: VII III C: VII III¹ C: VII¹ III C: I IV¹ VII III¹ VI V

◇ ∇_7 の根音省略形としての用法 (∇_7 , ∇_7^1)

注…第3 転回形 (∇_7^2) は可能ではあるが現段階では扱わない。

§. ∇_7 和音と同一機能を有し、D 和音として I, I¹ に解決進行する。

したがって、限定進行音とその解決は原則として ∇_7 和音に準じる。

バス定型 ∇_7 →I (a)(b)

∇_7^1 →I (c)

∇_7^2 →I¹ ※ I¹ の第3音重複は条件により可能である。(d)(e) (II - p.11 ∇_7^2 →I¹ 参照)

C: ∇_7 I C: ∇_7 I C: ∇_7^1 I C: ∇_7^2 I¹ II¹ C: ∇_7^2 I¹ ∇_7^2

§. ♯和音の例外的解決

Ⅶ₇和音の第7音にあたるiv度音は導音の下声に置かれる場合、例外的に2度上行解決が可能となる。

(f)(g)(h)(i) このことはI¹の第3音重複をさけることにより、特に有効である。(h)(i)

C: ♯₇ I ♯₇ I ♯₇ I¹ ♯₇ I¹

§. ♯和音の例外的配置と解決

第7音にあたるiv度音の重複した配置（第7音をSop.に置いたオクターブ配置）が可能である。重複された第7音のうち、上声は2度下行、下声は2度上行して解決する。

C: ♯₇ I ♯₇ I¹ II¹ ♯₇ I¹ V₇

課題22.与えられたバスを基に、それぞれ異なる2種の配置で連結を試みなさい。

a: ♯₇ I G: ♯₇ I F: ♯₇ I e: ♯₇ I¹ D: ♯₇ I¹ d: ♯₇ I

課題23.次のバス課題を実施しなさい。

課題24.次のソプラノ課題を実施しなさい。

V₉の和音

自然倍音列の第9倍音までの音組織により、長属9和音が構成される。このことにより近代和音組織上、V₉は最も完備した和音とされる。短属9和音はこれに準じて扱われ、この2種の和音により、旋法と調性が明確に確立されることとなる。

長属9和音、短属9和音は共にv度上に構成されるため、V₉の和音記号で示され、V、V₇と同様にドミナント機能を持つ。

倍音番号 1 2 3 4 5 6 7 8 9

C:

長属9和音

C: V₉ I

短属9和音

a: V₉ I

◇V₉の限定進行音と省略音

限定進行音

- 第3音 (導音) → 2度上行
- 第7音 → 2度下行
- 第9音 → 2度下行

省略音

後述するV₉を除き、常に第5音が省略される。

C: V₉ I a: V₉ I

◇V₉の配置 (基本形)

第9音の配置

- 長調のV₉ (長属9和音)
 - (1)根音より9度以上隔てた上声に配置する。(a)
 - (2)第3音 (導音) より7度以上隔てた上声に配置する。(a) ただし、第9音が先行和音より保留されている場合は、第3音の下声に配置することが可能である。(c)
- 短調のV₉ (短属9和音)
 - (1)根音より9度以上隔てた上声に配置する。(d)(e)
 - (2)第3音 (導音) との音程が増2度となるため、制限を受けない。(e)

長調、短調共、第9音、第7音高位配置が最適であり、短調では第3音高位配置も可能である。

a 良好 b 不良 c 可能 d 良好 e 良好 f 不良

C: V₉ V₉ IV V₉ a: V₉ V₉ V₉

◇V₉の連結(1)

D和音としてT和音であるI度の基本形に解決進行する。I¹, VI度の和音には進行しない。

C: V₉ I V₉ I II¹ V₉ I a:V₉ I V₉ I V₉ I

◇V₉の連結(2)

V₉は同じD和音であるV₇へ進行することがある。この際、第9音のみが下行限定進行音としてV₇和音の根音へ2度下行する。

C: V₉ V₇ V₉ V₇ IV V₉ V₇ a:V₉ V₇ V₉ V₇ V₉ V₇

◇V₉の連結(3)

先行和音⇒V₉

★禁則 先行和音からV₉に連結する際、V₉(基本形)の根音と第9音の間に生じる外声間の並進9度は、上声部が順次進行する場合を除き(a)、禁じられる。(b)(c)

C: I V₉ II V₉ VI V₉

◇V₉の転回形 (V₉^b, V₉³)

(1)V₉の第4転回形は第9音が根音の下方に位置するため、用いない。

(2)V₉の第2転回形は殆ど用いられないが、V₉の第1、第3転回形の根音が先行和音より保留され、第9音より9度以上下方にあるときは十分に可能である。

C: I V₉^b I I¹ V₉^b I I¹ V₉³ I I V₉³ I I V₉³ I

◇V₉の用例

L.v.Beethoven: Piano Cncerto No3.Ⅲ楽章
Allegro

C: V₉ [V₇ I¹] I

C.Franck: Violin Sonate I (V₇[♯]を含む用例)

Allegretto ben moderato

E: V₉ V₇[♯] V₉ V₇[♯] V₉ II V₉

◇V₉を含むバス課題の実施

ex.

D:

1.終止の分析

半終止にはVの基本形を、全終止にはV、またはV₇の基本形を主に用い、V₉は中間楽節において用いる。ただし、弱拍においてV₇、V₇[♯]が軽妙に用いることは十分可能である。また全終止にV₉を設定することは不可能ではないが稀である。

2. V₉、V₆、V₇[♯]を中間楽節において適宜設定する。転回形は根音の予備が望ましい。

3.その他の和音設定を行う。

実施例

D: I IV V₉ I IV II¹ V I I V₇[♯] I II V I

課題25. 与えられたバスを基に、連結を試みなさい。

a b c d e f
G: V₉ I e: V₉ I D: V₉ I F: I V₇[♯] I d: I¹ V₇[♯] I E: I¹ V₇[♯] I¹

課題26.以下のバス課題を実施し、カデンツと終止を分析しなさい。V₉を用いること。



◇V₉を含むソプラノ課題の実施

終止の和音設定、V₉→I¹の設定等、V₉を含むバス課題の実施に準じる。
ソプラノ定型を示す。

C: V₉ I V₉ I V₉ I a: V₉ I V₉ I V₉ I
 V₉ I V₉ I
 V₉ I¹ V₉ I¹

※…長調の第3音高位のV₉は第9音の予備を必要とすし、節度をもって扱われる。〈II-p.21(c)参照〉

課題27.以下のソプラノ課題を実施し、カデンツと終止を分析しなさい。V₉を用いること。



◇vii度上の7の和音 VII₇ と属9和音の根音省略形 V₉

この2種の和音は、次に進行する和音により用法が区別される。

用例は少ないが、5度関連によりIII₇に進行するvii度音を根音とする副7和音としてのVII₇の和音と、
旋律的要素を含み多く用いられるI¹に解決進行する属9和音の根音省略としての機能を持つV₉である

	基本形	第1転回形	第2転回形	第3転回形
VII ₇ (副7和音)	VII ₇	VII ₇ ¹	VII ₇ ²	VII ₇ ³
V ₉ (V ₉ の根音省略)	V ₉	V ₉ ¹	V ₉ ²	V ₉ ³

◇副7和音 VII₇, VII₇¹, VII₇², VII₇³

5度関連によりIII₇に進行する副7和音で、模続進行の際に用いられる程度である。
用法については副7和音の項で述べる。

◇V₉の根音省略形 V₉

V₉和音と同機能を有し、D和音としてI, I¹に解決進行する。

C: V₉ V₉¹ V₉² V₉³ a: V₉ V₉¹ V₉² V₉³

仏数字 7 +5/6 +3/4 +2 7 +6/6 +4/3 +2

バス定型 長調 V₉ - I 短調 V₉ - I

*1 V₉¹ - I¹ V₉¹ - I¹

*1 V₉² - I¹ V₉² - I¹

*2 V₉³ - V₇(V) V₉³ - [V₇(V) / I²]

- *1 長調においてはV₉和音と同様に第9音は第3音(導音)の上声に配置する。(II-p.21参照)
- *2 長調においてはバスに有る第9音は先行和音からの予備を必要とする。

C: V₉ I V₉¹ I¹ V₉² I¹ V₉³ V₇ V₉ V(V₉)

a: V₉ I V₉¹ I¹ V₉² I¹ V₉³ V₇ V₉ V(V₉) V₉ I²(V₉)

§. ♯和音の例外的解決

第7音は導音の下声に配置される場合、第2転回形に限り、例外的に2度上行解決することが可能である。(1)(m)(n) (II-p.20 ♯和音の例外的解決参照)

C: ♯ I I a: ♯ I I ♯ I I

§. 先行和音から ♯へ の進行において、外声間に生じる並達5度は、ソプラノが跳躍しているにも拘わらず許容される。このことは ♯和音における第9音の有する倚音的性質の所以である。

C: I ♯ I I ♯

課題28.与えられたバスを基に、それぞれ異なる2種の配置で連結を試みなさい。

e: ♯ I I C: ♯ I F: ♯ I e: ♯ I D: ♯ I d: ♯ V7

課題29.次のバス課題を実施し、カデンツと終止を分析しなさい。

6.



7.



8.



課題30. 次のソプラノ課題を実施し、カデンツと終止を分析しなさい。

1.



2.



3.



4.



5.



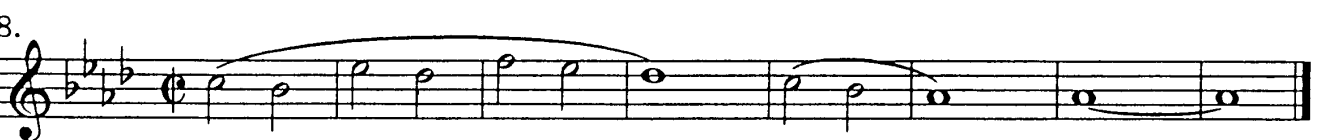
6.



7.



8.



副 7 和音

§.v度上の自然不協和和音であるV₇和音の原理をv度を除く各音度上に移調した人為的不協和和音で、II₇、IV₇以外の副7和音は模続進行以外に用いられることは少ない。

§.各副7和音はV₇和音と同様に基本形と3種の転回形から成り、その構成音と和音記号を以下に示す。

長調																																
	C: I ₇	I ₇ ↓	I ₇ ♯	I ₇ ♭	C: II ₇	II ₇ ↓	II ₇ ♯	II ₇ ♭	C: III ₇	III ₇ ↓	III ₇ ♯	III ₇ ♭	C: IV ₇	IV ₇ ↓	IV ₇ ♯	IV ₇ ♭	C: V ₇	V ₇ ↓	V ₇ ♯	V ₇ ♭												
短調	a: I ₇	I ₇ ↓	I ₇ ♯	I ₇ ♭	a: II ₇	II ₇ ↓	II ₇ ♯	II ₇ ♭	a: III ₇	III ₇ ↓	III ₇ ♯	III ₇ ♭	a: IV ₇	IV ₇ ↓	IV ₇ ♯	IV ₇ ♭	a: V ₇	V ₇ ↓	V ₇ ♯	V ₇ ♭												

※短調におけるIII₇の第7音、VII₇の根音は導音機能を持たないため、それぞれ固有のvii度をを用いる。

◇第7音の予備と解決

副7和音の第7音はV₇和音と異なり、先行和音からの予備を必要とし、2度下行して解決する。ただし、解決に際し、同度に保留された後、2度下行して解決することがある。(e)

a	b	c	d	e
C: I ¹	II ₇ V ₇	I ¹	II ₇ V ₇	I ¹
				II ₇ V ₇
				I ¹ II ₇ I ² V

◇副7和音を含む横続(反復)進行

5度関連による横続(反復)進行として副7和音が用いられる。

7-7

C:(c):I IV₇ VII₇ III₇ VI₇ II₇ V₇ I

7- $\frac{2}{7}$

C:(c):I IV₇ VII₇ III₇ VI₇ II₇ V₇ I

$\frac{2}{7}$ - $\frac{3}{7}$

C:(c):I IV₇ VII₇ III₇ VI₇ II₇ V₇ I

$\frac{2}{7}$ -7

C:(c):I IV₇ VII₇ III₇ VI₇ II₇ V₇ I₇ IV₇ V₇ I¹

$\frac{3}{7}$ - $\frac{1}{7}$

C:(c):I II₇ V₇ I₇ IV₇ VII₇ III₇ VI₇ II₇ V₇ I¹

◇II₇、IV₇の和音

§.配置、省略音、重複音

基本形と3種の転回形が用いられ、原則として4種の構成音を、密集または開離に配置する。
ただし、基本形では第5音省略、根音重複配置がしばしば用いられる。

§.機能、連結

II₇, IV₇はS和音度機能を有し、D和音へ進行する。その際、第7音は下行限定進行音として2度下行する。

II₇

Chord progressions for C: II₇ V II₇ V₇ II₇ I² V₇ II₇ V II₇ V₇ II₇ V₇ II₇ V₇ II₇ V₇

Chord progressions for C: II₇ I² V *1 II₇ V *1 II₇ I² V *2 II₇ V¹ *2 II₇ V¹ *2 II₇ V₇

§.*1長調におけるII₇は、根音とバス音である第5音との、孤立した低音4度（完全4度）を避けるため、バス音にある第5音は予備を必要とする。(i)(j)(n)

§. 上記において、先行和音からのオクターブ進行による場合も、第5音の予備に準じて扱われる。(o)

§. 短調におけるII₇は、根音とバスの第5音が増4度となるため、予備を必要としない。(p)

Chord progressions: C: [VI IV¹] II₇ V_o [VI IV¹] II₇ V_o a: I¹ II₇ V_o

§.*2 II₇は長調、短調共、バス音がII₇の第7音であり、先行和音からの予備を必要とする。(k)(l)(m)(q)

§. バスにおいては、先行和音からのオクターブ進行（主として上行）も予備に準じて扱われる。(s)

Chord progressions: C: I II₇ [V¹ V₇ V₇] IV¹ I [V¹ V₇ V₇] I II₇ [V¹ V₇ V₇]

IV₇

§ .IV₇はII₇と同様にS和音度機能を有し、D和音に進行する。

この際、II₇と異なり、I²-V₇へ進行することは稀である。

§ .IV₇において、バスにある第3音は長調では2度上行し(d)(e)、短調ではバスに生じる増2度音程を避けるため、減7度下行する。(f)

C: IV₇ V IV₇ V IV₇ V₇ IV₇ V¹ IV₇ V₇ a: IV₇ V₇

C: ^{*1}IV₇ V₇ ^{*1}IV₇ V₇ ^{*2}IV₇ V₇ ^{*2}IV₇ V₇ a: ^{*2}IV₇ V₇

§ .^{*1}IV₇においては、長調、短調共、根音とバス音である第5音との孤立した低音4度（完全4度）を避けるため、バスにある第5音の予備を必要とする。(a)

§ .上記において、先行和音からのオクターブ進行による場合も、第5音の予備に準じて扱われる。(b)

C: I IV₇ V¹
V₇
V₇ I IV₇ V¹
V₇
V₇

§ .^{*2}長調、短調共バス音がIV₇の第7音であり、先行和音からの予備を必要とする。(c)(d)

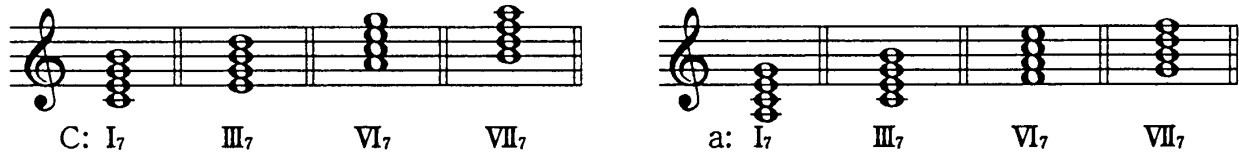
バスにおいては、オクターブ進行（主として上行）も第7音の予備に準じて扱われる。(e)(f)

C: [I¹ III] IV₇ [V₇¹ V₇]
a: [I¹ III] IV₇ [V₇¹ V₇]
G: [I¹ III] IV₇ [V₇¹ V₇]
e: [I¹ III] IV₇ [V₇¹ V₇]

I₇, III₇, VI₇, VII₇

§. これらの副7和音はその薄弱な機能により、模続(反復)進行以外に用いられることは稀である。
 (II-p.28参照)

§. 構成音



- ▽*1 長調におけるこれらのvii度音は導音ではない。VII₇では根音であるvii度音の重複も可能である。(II-p.28参照)
- ▽*2 短調における7度音は導音機能を持たないため、音階固有の7度を用いる。

§. 配置、重複、省略

▽基本形と3種の転回形が用いられ、原則として4種の構成音を密集、または開離に配置する。ただしII₇, IV₇と同様に、基本形においては第5音の省略、根音重複がしばしば用いられる。

§. 第7音の予備と解決

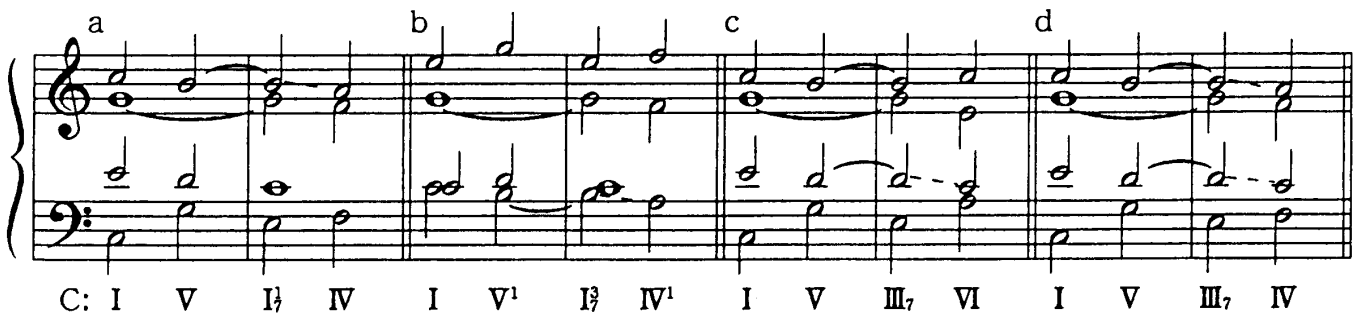
- ▽II₇, IV₇と同様に第7音の予備、解決が必要である。
- ▽第2転回形においては長調のVII₇を除き、孤立した低音4度(完全4度)を避けるため、バスにある第5音の予備が必要である。

§. 機能

I ₇	……	Ⓜ和音度機能	VI ₇	……	Ⓜ和音度機能		
III ₇	┌	⇒VI ₀	……	Ⓜ和音度機能	VII ₇	……	Ⓜ和音度機能
		⇒IV ₀	……	Ⓜ和音度機能			

§. 先行和音の条件

- ▽後続する副7和音の第7音の予備音が構成音中に含まれていること。
- ▽後続する副7和音の第2転回形の低音4度(完全4度)の予備が可能なこと。(k)
- ▽短調におけるV⇒I₇の連結では、固有のvii度を用いること。(e)(f)
- ▽短調におけるV⇒III₇の連結では、固有のvii度を用いることが多い。(g)(h)
- ▽短調におけるV⇒VI₇の連結では、vii度⇒i度の場合は導音を、(l) v_{ii}度⇒v_i度の場合は固有のvii度を用いること。(m)



e f g h

a: I V I $\frac{1}{2}$ IV I V 1 I $\frac{3}{2}$ IV I V III $_7$ VI I V III $_7$ IV

i j k l m

C: I VI $_7$ II $_7$ V $_7$ I VI $\frac{1}{2}$ II I 1 VI $\frac{3}{2}$ II a:V VI $\frac{3}{2}$ IV V VI $\frac{3}{2}$ II 1

課題31.与えられたバスを基に、連結を試みなさい。

a b c

C: I II $\frac{1}{2}$ V $\frac{3}{2}$ I $\frac{1}{2}$ IV I a: I II $\frac{3}{2}$ V \flat I II $\frac{1}{2}$ V I F: I V III $_7$ IV V I

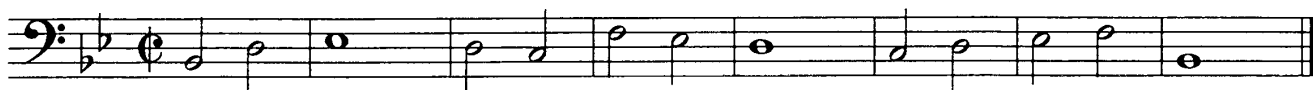
d e f

d: I V III $_7$ IV V I G: I IV $_7$ V $_7$ VI $\frac{3}{2}$ II $\frac{1}{2}$ V I e: I V VI $\frac{3}{2}$ II 1 I 2 V $_7$ I

課題32.次のバス課題を実施しなさい。副7和音を用いること。

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.

5.



6.



課題33. 次のソプラノ課題を実施しなさい。副7和音を用いること。

1.



2.



3.



4.



5.



6.



付加和音

3和音の原型に根音から6度上方の音を加えた和音を付加6の和音、更に3和音の第5音の代わりに根音から4度上方の音も併せて加えた和音を付加 $\frac{6}{4}$ の和音という。

付加和音は音階の各音度上に設定可能であるが、ここではカデンツ第3型で用いられるiv度上の付加和音のみを扱う。

IV度付加6、IV度付加 $\frac{6}{4}$ の和音

§.IV度付加6の和音 (IV+6と表記)

長調、短調において、カデンツ第3型(T-S-D-T)のS項に用いられ、形態としてはII₇和音の第1転回形と同一であるが、機能が異なるため、iv度音を根音とする和音として扱う。

付加されたii度音は2度上行してI度和音の第3音(iii度)に解決する上行限定進行音である。

Examples of IV+6 chords and their resolution to the tonic I:

- a: C: IV+6 I
- b: C: IV+6 I
- c: a: IV+6 I
- d: C: IV+6 I

§.IV度付加 $\frac{6}{4}$ の和音 (IV+ $\frac{6}{4}$ と表記)

短調において、IV度付加6の和音の第5音を省略し、根音から4度上方の音(vii度音)を付加したものである。付加されたvii度音は導音機能を持ち、ii度音と同様に上行限定進行音であり、I度と音の根音(主音)に解決する。機能はIV+6の和音と同様にカデンツ第3型のS項に用いられ、S和音度機能を有する。基本形のみを扱う。(e)(f)

Examples of IV+ $\frac{6}{4}$ chords and their resolution to the tonic I:

- e: C: IV+ $\frac{6}{4}$ I
- f: a: IV+ $\frac{6}{4}$ I

IV+ $\frac{6}{4}$ の和音は減7和音形態を有するために配置の制限はなく、短調で用いられるが、変化和音の項で説明する準固有和音を用いることにより、vi度音を増1度下行変質させた減7和音として、長調においても短調同様の使用が可能である。(g)(h) (II-p.36参照)

Examples of diminished IV+ $\frac{6}{4}$ chords and their resolution to the tonic I:

- g: C: °IV+ $\frac{6}{4}$ I
- h: C: °IV+ $\frac{6}{4}$ I

第3章 変化和音

◇定義

変化和音には他の調の所属和音を一時的に用いる借用和音と、主調の構成音の一部が変質する変質和音とがある。

借用和音 (1)準固有和音

◇準固有和音 (Moll-Dur)

長調において、その同主短調のvi度音を含む諸和音(II_b, IV_b, VI, V_b, V_{7b})を借用することがある。DurにおけるMollとして固有和音に準じる扱いを受けるため、この名称が冠された。

準固有和音は和音度の左に◦印を付すことにより、◦II_b, ◦IV_b, ◦VI, ◦V_b, ◦V_{7b} のように表記する。

C-durにおける準固有和音一覧

C: ◦II° ◦II₇ ◦IV° - ◦IV+6 - ◦IV+₆ ◦IV₇* ◦V_b ◦V_{7b} ◦VI*

▽*1 ◦IV₇, ◦VI においてはvi度音の他にiii度音も半音低く変質させた同主短調の固有音を用いる。

◇準固有和音を含む連結

固有和音⇒準固有和音の連結

相互に増1度関係を成す2音が含まれている場合は、その2音を同一声部で連結させる。(a)(b)
増1度関係音程を含まない場合は、固有和音相互間の連結に準じる。(c)(d)

準固有和音⇒固有和音の連結

vi度音を含まない固有和音(I^{III}, V_b, I²-V_b)へのみ連結可能であり、vi度音を含む和音は引き続き準固有和音を設定しなければならない。(e)

C: IV ◦II¹ IV ◦II₇ I ◦IV V₇ ◦VI I ◦VI ◦II V I

◇対斜

上例(a)(b)の連結において、増1度関係を成す2音を異なる2声部に連結することを対斜と呼称し、禁じられる。(f)(g) ただし、後続和音が減7和音である場合、いずれか1声部が増1度進行する場合には対斜は許される。(h)(i)

C: IV ◦II₇ IV ◦II₇ IV ◦V_{7b} I ◦II¹

課題34.与えられたバスを基に、連結を試みなさい。

a C: I °II¹ °V₉ I b G: I °IV¹ °II¹ V I c F: I V₇ °VI °IV₊₆ I

d D: I °V₃ I¹ e B: II °V₃ I¹ f A: I °V₃ I g Es: I °IV₊₆ I

課題35.次のバス課題を実施しなさい。準固有和音を適宜用いること。

1. [Musical staff with quarter and eighth notes]

2. [Musical staff in 3/4 time, quarter and eighth notes]

3. [Musical staff in 2/4 time, quarter and eighth notes]

4. [Musical staff in 6/8 time, eighth notes and rests]

課題36.次のソプラノ課題を実施しなさい。準固有和音を適宜用いること。

1. [Musical staff with quarter and eighth notes, phrasing lines]

2. [Musical staff in 6/8 time, eighth notes, phrasing lines]

3. [Musical staff in 3/4 time, quarter and eighth notes, phrasing lines]

4. [Musical staff in 2/4 time, quarter and eighth notes, phrasing lines]

(2) ナポリの6の和音 (短調 $\circ\text{II}^1$ 長調 $\circ\text{-II}^1$ と表記)

フリギア旋法におけるii度音の特徴を短調に活かした、極めて印象的な性格を持つ長3和音の第1転回形で、前項の同主単調からの借用和音である準固有和音を併用することにより、長調においても用いられる。

Phrygien 短調 長調

i ii iii iv v vi vii i II II¹ -II II II¹ $\circ\text{II}^1$ $\circ\text{-II}^1$

短2度

§. ナポリの6の和音はカデンツ第2型 (T-S-D-T) のS項に用いられ、S和音度機能を有し、D諸和音 (VII , VII^\sharp , $\text{I}^2\text{-V}$ [VII^\flat])へ進行する。その際、半音下行変質した根音は減3度下行し、V度和音の第3音(導音)に進行する。(a)(b)(d)(e) また変質した根音と、V度和音の第5音間に生じる対斜は許容される。 I^2 を経て、D諸和音へ進行することにより対斜は回避され、和らげた表現が得られる。(c)(f)

a b c d e f

a: -II^1 V -II^1 V^\sharp I^1 -II^1 I^2 V C: $\circ\text{-II}^1$ V $\circ\text{-II}^1$ V_7 I^1 $\circ\text{-II}^1$ I^2 V

◇ ナポリの6の和音を用いた4声体実施例

a: I V^\sharp I^1 V I IV^1 V I^1 V^\sharp I^1 -II^1 I^2 V_7 I

◇ ナポリの6の和音の用例

Beethoven: Piano Sonata Op.27-2 第1楽章

cis: I 経過音 | I^\sharp | VI -II^1 V_7 — I etc.

課題37.与えられたバスを基に、連結を試みなさい。

a b c d

c: I -II^1 V G: $\circ\text{-II}^1$ V^\sharp d: -II^1 V^\sharp e: I^1 -II^1 I^2 V

(3) ドリアの IV の和音 (+IV と表記)

ドリア旋法におけるvi度音の特徴を短調に活かした、個性的な響きを持つiv度上の和音で、短調においてのみ、主として7の和音の形態で用いられる。短調のIV₇の和音の第3音を半音高く変質させた形態である。本書では使用頻度の高い+IV₇についてのみ説明する。

Dorien



i ii iii iv v vi vii i

長6度


短調



d: IV +IV +IV₇ +IV₉ +IV_{b7}


§. ドリアのIVの和音はカデンツ第2型 (T-S-D-T) のS項に用いられ、S和音度機能を有し、D諸和音 (I²-V_{II}を除く) へ進行する。

§. 上行変質された第3音 (↑vi度音) は2度上行してD和音の導音へ解決進行する限定進行音である。(a)(b)(c)(d) しかし、IV_{b7}の和音に進行する場合は、増1度下行することが可能である。(e)(f)



a: +IV₇ V₇ b: +IV_{b7} V_{b7} c: +IV_{b7} V_{b7} d: +IV_{b7} V_{b7} e: +IV_{b7} V_{b7} f: +IV₇ V_{b7}

◇ ドリアのIVの和音を用いた4声体実施例



a: I +IV_{b7} V_{b7} I +IV₇ V₇ VI I¹ +IV_{b7} V_{b7} I¹ IV₇ V₇ I

◇ ドリアのIV度の和音の用例

W.A.Mozart: Piano Sonata K.457 第3楽章



c: +IV_{b7} V_{b7} 経過音 | II_{b7} | V_{b7}

課題38. 与えられたバスを基に、連結を試みなさい。



a: c: +IV_{b7} V_{b7} b: g: +IV_{b7} V_{b7} c: e: +IV₇ V₇ d: h: +IV_{b7} V_{b7} e: c: +IV_{b7} V_{b7}

課題39.次のバス課題を実施しなさい。+IV⁷, -II¹ を用いること。

1.  Bass clef, C major, 4/4 time. Melody: C2, D2, E2, F2, G2, A2, B2, C3, D3, E3, F3, G3, A3, B3, C4.

2.  Bass clef, B-flat major, 4/4 time. Melody: B1, C2, D2, E2, F2, G2, A2, B2, C3, D3, E3, F3, G3, A3, B3, C4.

3.  Bass clef, D major, 6/8 time. Melody: D2, E2, F2, G2, A2, B2, C3, D3, E3, F3, G3, A3, B3, C4.

4.  Bass clef, B-flat major, 4/4 time. Melody: B1, C2, D2, E2, F2, G2, A2, B2, C3, D3, E3, F3, G3, A3, B3, C4.

課題40.次のソプラノ課題を実施しなさい。+IV⁷, -II¹ を用いること。

1.  Soprano clef, C major, 4/4 time. Melody: C4, D4, E4, F4, G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F4, E4, D4, C4.

2.  Soprano clef, B-flat major, 4/4 time. Melody: B3, C4, D4, E4, F4, G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F4, E4, D4, C4.

3.  Soprano clef, D major, 3/4 time. Melody: D4, E4, F4, G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F4, E4, D4.

4.  Soprano clef, B-flat major, 4/4 time. Melody: B3, C4, D4, E4, F4, G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F4, E4, D4, C4.

(4)副V和音

主調の近親調のv度上の和音(属和音)を一時的に借用することがある。

近親調とは長調、短調の主和音を除く各音度上の3和音のうち、調の主和音と成り得る3和音すなわち長3和音、短3和音を主和音とする調と定義する。

近親調は主調に対し、ローマ数字の小文字をもってii度調、iii度調、iv度調、v度調、vi度調vii度調と呼称し、各音度調の属和音を \check{V} , \check{V}^{\flat} , \check{V}^{\sharp} , $\check{V}^{\flat\sharp}$, $\check{V}^{\sharp\flat}$ と表記し、それらを副V和音と呼称するまた、副V和音は副属和音ということがある。

長調

C: I II III IV V VI VII

\check{V}^{\flat} \check{V} \check{V}^{\sharp} $\check{V}^{\flat\sharp}$ $\check{V}^{\sharp\flat}$ \check{V} $\check{V}^{\flat\sharp}$

" (V $^{\flat}$ I) " (V I) " (V $^{\sharp}$ I) " (V $^{\flat\sharp}$ I) " (V $^{\sharp\flat}$ I) " (V I) " (V $^{\flat\sharp}$ I)

*... \check{V} の3和音は形態的に意味がないので用いない。

短調 (vii度音は固有音を用いる)

a: I II III IV V VI VII

\check{V}^{\sharp} \check{V} \check{V}^{\flat} $\check{V}^{\sharp\flat}$ $\check{V}^{\flat\sharp}$ \check{V}^{\sharp} $\check{V}^{\flat\sharp}$

" (V $^{\sharp}$ I) " (V I) " (V $^{\flat}$ I) " (V $^{\sharp\flat}$ I) " (V $^{\flat\sharp}$ I) " (V $^{\sharp}$ I) " (V $^{\flat\sharp}$ I)

◇副V和音の形態

§. 上記のように、副V和音は属和音の形態は長調における準固有和音を含め、すべて可能である。

また、各音度調のD-Tの関係から、広義における近親転調と見なすこともできる。[例 $^{\sharp}(V^{\flat}-I)$]

§. \check{V}^{\flat} , \check{V}^{\sharp} 諸和音については、解決する主調のV度和音が自然不協和和音である属和音という多種の形態を有するため、属7和音、属9和音、及びそれらの根音省略形に進行することが多い。この和音は属調の属和音という意味でドッペルードミナント(Doppell-Dominante[独])と呼称され、他と区別され、用例が多い。

◇副V和音の配置、進行

§. 副V和音の配置は、固有和音である V^{\flat} , V^{\sharp} , $V^{\flat\sharp}$, $V^{\sharp\flat}$, $^{\circ}V^{\flat\sharp}$ の配置に準じる。(長調、短調)

§. \check{V}^{\flat} の基本形は原則として根音を重複し、第5音は省略する。 (\check{V}^{\flat}_7) を除く)

§. 各副V和音は各々の所属調の主和音(I度)に解決進行する。その際、限定進行音の進行についても V^{\flat} , V^{\sharp} , $V^{\flat\sharp}$, $V^{\sharp\flat}$, $^{\circ}V^{\flat\sharp}$ と同様である。ただし、 \check{V}^{\flat} , $^{\circ}\check{V}^{\flat}$ については解決和音の形態により例外がある。

◇ $\nabla_{\text{II}}(\nabla_{\text{II}})$, $\nabla_{\text{II}}(\nabla_{\text{II}})$, $^{\text{oi}}\nabla_{\text{II}}(^{\text{oi}}\nabla_{\text{II}})$, $^{\text{oi}}\nabla_{\text{II}}(^{\text{oi}}\nabla_{\text{II}})$, $^{\text{oi}}\nabla_{\text{II}}(^{\text{oi}}\nabla_{\text{II}})$ の諸和音 (長調) を含む和音連結

§. 副V和音の機能は各副V和音の根音により、決定される。(例外がある)

$\nabla_{\text{II}}(\nabla_{\text{II}})$

§. ii 度調の I 度和音に解決進行する ii 度調の属和音であるが、Ⅲ和音度機能を持つ。

§. $\nabla_{\text{II}} - \text{II}^{\circ}$ の進行は $(\nabla_{\text{II}} - \text{I}^{\circ})$ の転調進行と見なすことができる。

a

b

c

C: I ∇ II¹ V I I ∇_7 II V¹ I I ∇^1 II V¹ I
 " (V I¹) " (V₇ I) " (V¹ I)
 T — S D T T — S D T T — S D T

d

e

C: I¹ ∇_7 II¹ V I¹ VI ∇_7 II¹ V I¹
 " (V₇ I¹) " (V₇ I¹)
 T — S D T T — S D T

$\nabla_{\text{III}}(\nabla_{\text{III}})$

§. iii 度調の I 度和音に解決進行する iii 度調の属和音であるが、Ⅲ和音度機能を持つ。

§. $\nabla_{\text{III}} - \text{III}^{\circ}$ の進行は $(\nabla_{\text{III}} - \text{I}^{\circ})$ の転調進行と見なすことができる。

§. $\nabla_{\text{III}}(\nabla_{\text{III}})$ は、解決進行する和音が使用頻度の少ないⅢ度和音のため、実際に用いられることは少ない。

f

C: I ∇_7 III¹ VI II¹ V I
 " (V₇ I¹)
 T — D T S D T

$\overset{\circ}{V}_{\flat}(\overset{\circ}{V}_{\flat})$

- §. iv 度調の I 度和音に解決進行する iv 度調の属和音であるが、 IV 和音グループとしての機能を持つ。
- §. $\overset{\vee}{V}_{\flat}-IV^{\circ}$ の進行は $\overset{\vee}{V}(V_{\flat}-I^{\circ})$ の転調進行と見なすことができる。
- §. IV 度の準固有和音である $\overset{\circ}{IV}^{\circ}$ に進行する場合、iv 度調の同主短調と見なし、 $\overset{\circ}{V}(\overset{\circ}{V}_{\flat})_{\flat}$ と表記する。(i)(k)
これらの和音は準副 V 和音と呼称される。また $\overset{\circ}{V}(V_{\flat}-I^{\circ})$ のように転調進行と見なすことができる。
- §. $\overset{\vee}{V}_{\flat}(\overset{\vee}{V}_{\flat})$ の和音に準固有和音を用い、固有和音の IV° に進行することがある。
この場合、 $\overset{\circ}{V}_{\flat}(\overset{\circ}{V}_{\flat})$ と表記する。(n)
- §. $\overset{\vee}{V}_{\flat}$ は 5 度関連進行により $V_{(7)}$ から導くことがある。その際、 $V_{(7)}$ の第 3 音は増 1 度下行する。(i)
また $\overset{\vee}{V}_{\flat}$ は変終止において IV^2 に進行することがある。(副 V 和音の例外的進行参照)

g h i

C: I $\overset{\vee}{V}_{\flat}$ IV II I² $\overset{\vee}{V}_{\flat}$ I I $\overset{\circ}{V}_{\flat}$ IV V₇ VI I V $\overset{\circ}{V}_{\flat}$ $\overset{\circ}{IV}$ I
 $\overset{\vee}{V}$ (V₇) I $\overset{\vee}{V}$ (V₇) I $\overset{\vee}{V}$ (V₇) I
 T - S - D T T - S D T T D T S T

j k

C: VI $\overset{\vee}{V}_{\flat}$ IV V I I $\overset{\circ}{V}_{\flat}$ $\overset{\circ}{IV}^1$ $\overset{\circ}{II}^1$ I² $\overset{\vee}{V}_{\flat}$ I
 $\overset{\vee}{V}$ (V₇) I $\overset{\vee}{V}$ (V₇) I¹
 T - S D T T - S - D T

$\overset{\vee}{V}_{\flat}(\overset{\vee}{V}_{\flat})$

- §. 主調の VI 度和音に解決進行する場合は IV 和音度機能を、(1)(m)(n) 基本形として IV 度和音に解決進行する場合は IV 和音度機能を持つ。(o)
- §. $\overset{\vee}{V}_{\flat}-VI^{\circ}$ の進行は $\overset{\vee}{V}(V_{\flat}-I)$ の転調進行と見なすことができる。(1)(m)(n) また、 $\overset{\vee}{V}_{(7)}-IV$ の進行は $\overset{\vee}{V}(V_{(7)}-VI)$ を意味するものである。(o)

l m n

C: I II¹ VI II² V I $\overset{\vee}{V}_{\flat}$ I II¹ V I $\overset{\vee}{V}_{\flat}$ VI II² V
 $\overset{\vee}{V}$ (V₇) I $\overset{\vee}{V}$ (V₇) I
 T D T S D T D T S D T D T S D

C: I $\overset{\circ}{V}_7$ IV II I^2 $\overset{\circ}{V}_7$ I
 $\overset{\circ}{V}_7$ ($\overset{\circ}{V}_7$) VI) — — — — —
 T — S — D — T

$\overset{\circ}{V}_8(\overset{\circ}{V}_8)$

§. 長調における準固有和音のうち、主和音と成り得る形態を持つ $\overset{\circ}{IV}$ 、 $\overset{\circ}{VI}$ は近親調に準じて扱われ、各々の属和音は準副 $\overset{\circ}{V}$ の和音として用いられる。(°IV 度調の準副 $\overset{\circ}{V}$ については既述)

§. $\overset{\circ}{V}_8(\overset{\circ}{V}_8)$ の和音は $\overset{\circ}{V}_8 - \overset{\circ}{VI}^\circ$ の場合は \boxtimes 和音群として、(p) $\overset{\circ}{V}_8(\overset{\circ}{V}_8) - \overset{\circ}{IV}$ の場合は \boxtimes 和音群とみなす。(q)

C: I $\overset{\circ}{V}_7$ $\overset{\circ}{VI}$ $\overset{\circ}{II}$ I^2 $\overset{\circ}{V}_7$ I I^1 $\overset{\circ}{V}_7$ $\overset{\circ}{IV}$ $\overset{\circ}{IV}_{+6}$ I
 $\overset{\circ}{V}_7$ ($\overset{\circ}{V}_7$) I) — — — — — $\overset{\circ}{V}_7$ ($\overset{\circ}{V}_7$) VI) — — — — —
 T D T S D T T — S — T

$\overset{\circ}{V}_8(\overset{\circ}{V}_8)$, $\overset{\circ}{V}_8(\overset{\circ}{V}_8)$, $\overset{\circ}{V}_8(\overset{\circ}{V}_8)$

§. 上記の準副 $\overset{\circ}{V}$ 和音の他、主調の同主短調の各音度上の 3 和音のうち、主和音と成り得る形態を持つ $\overset{\circ}{III}$ 、 $\overset{\circ}{VII}$ の属和音についても同様に準副 $\overset{\circ}{V}$ の和音として用いられる。(r)(s) またナポリの 6 の和音についても $\overset{\circ}{V}_8 - \overset{\circ}{II}^\circ$ の進行が可能であり、準副 $\overset{\circ}{V}$ の和音として用いられる。(t)

§. $\overset{\circ}{V}_8(\overset{\circ}{V}_8)$ の和音は \boxtimes 和音度群とみなし、 $\overset{\circ}{II}^\circ$ へ解決進行する。

C: I $\overset{\circ}{V}_7$ $\overset{\circ}{III}$ $\overset{\circ}{IV}$ I I $\overset{\circ}{V}_7$ $\overset{\circ}{VII}^1$ $\overset{\circ}{V}_7$ I^1 I^1 $\overset{\circ}{V}_7$ $\overset{\circ}{II}^1$ V I
 $\overset{\circ}{V}_7$ ($\overset{\circ}{V}_7$) I) — — — — — $\overset{\circ}{V}_7$ ($\overset{\circ}{V}_7$) I) — — — — —
 T D T S T T S D — T T — S D T

◇ $\overset{\#}{V}_B(\overset{\#}{V}_B)$, $\overset{\flat}{V}_B(\overset{\flat}{V}_B)$, $^{\circ}\overset{\flat}{V}_B(^{\circ}\overset{\flat}{V}_B)$, $^{\circ}\overset{\#}{V}_B(^{\circ}\overset{\#}{V}_B)$, $\overset{\flat}{V}_B(\overset{\flat}{V}_B)$ の諸和音 (短調) を含む和音連結

$\overset{\flat}{V}_B(\overset{\flat}{V}_B)$, $\overset{\flat}{V}_B(\overset{\flat}{V}_B)$

§. iii 度調の I 度和音に解決進行する iii 度調の属和音であるが、 III 和音度機能を持つ。

短調における iii 度調は固有の vii 度音を用いるため、 $^{\#}(V_B - I)$ の転調と見なすほうが妥当である。(a)(b)

§. iv 度調の I 度和音に解決進行する iv 度調の属和音であるが、 III 和音度機能を持つ。

§. $\overset{\flat}{V}_B - IV^{\circ}$ の進行は $^{\flat}(V_B - I^{\circ})$ の転調進行と見なすことができる。(b)(c)(d)

a

b

a: I $\overset{\flat}{V}_7$ III IV V
 $^{\#}(V_7 - I)$
 T D T S D

b: I $\overset{\flat}{V}_7$ IV $\overset{\flat}{V}_7$ III IV¹ V
 $^{\flat}(V_7 - I)$
 T D S D T S D

c

d

a: I¹ $\overset{\flat}{V}_7$ IV $\overset{\flat}{V}_7^2$ IV¹ II¹ I² $\overset{\flat}{V}_7$ I
 $^{\flat}(V_7 - I)$ $\overset{\flat}{V}_7^2$ I¹
 T — S T S — D T

b: I $\overset{\flat}{V}_7^3$ IV¹ II¹ I² $\overset{\flat}{V}_7$ I
 $^{\flat}(V_7^3 - I^1)$
 T — S — D T

$^{\circ}\overset{\flat}{V}_B(^{\circ}\overset{\flat}{V}_B)$

§. 主調の VI 度和音に解決進行する場合は III 和音度機能を、(e)(f)(g)(h) 基本形として IV 度和音に解決進行する場合は III 和音度機能を持つ。(i)

e

f

a: I $^{\circ}\overset{\flat}{V}_9$ VI IV⁺⁵ I
 $^{\circ}\overset{\flat}{V}_9$ I
 T D T S T

b: I $\overset{\flat}{V}_9$ VI II¹ I² V I
 $^{\flat}(V_9 - I)$
 T D T S D T

g h

a: I $\overset{\vee}{V}_7$ VI -II^1 I² V I
 $\overset{\vee}{V}_7$ (I)
 T D T S D T

I $\overset{\circ}{V}_7$ VI¹ -II^1 I² V I
 $\overset{\vee}{V}_7$ (I)
 T D T S D T

i

a: I $\overset{\vee}{V}_7$ IV -II^1 I² V I
 $\overset{\vee}{V}_7$ (I)
 T — S — D T

注…上例(g)(h)(i)においてII¹を用いているが、 $\overset{\circ}{V}_7$ ($\overset{\circ}{V}_7$)の第7音との表現上のバランスを考慮したもので、固有のII¹を用いることはもとより可能である。

$\overset{\circ}{V}_7$ ($\overset{\circ}{V}_7$)

§. vii 度調の I 度和音に解決進行する vii 度調の属和音であるが、 II^1 和音度機能を持つ。

短調における vii 度調は固有の vii 度音を用いるため、 $\overset{\vee}{V}_7$ ($\overset{\vee}{V}_7$) の転調と見なすほうが妥当である。(j)

§. $\overset{\circ}{V}_7$ ($\overset{\circ}{V}_7$) は、解決進行する和音が使用頻度の少ない VII 度和音のため、用いられることは少ない。(j)

§. $\overset{\circ}{V}_7$ の下行変質した第 9 音は、後述する V の諸和音のうち、減 3 和音、減 7 和音となる形態、すなわち短調の $\overset{\vee}{V}_7$ ($\overset{\vee}{V}_7$) の第 3 音と異名同音の関係にあり、和音の響きは同一のため、 $\overset{\vee}{V}_7$ ($\overset{\vee}{V}_7$) の和音として i 度調の D 和音へ進行することが殆どである。(k)

§. $\overset{\vee}{V}_7$ ($\overset{\vee}{V}_7$) は、前述のドリアの IV 度 ($\overset{\vee}{V}_7$) と同一形態を持つため、4 度上の長 3 和音、属 7 和音として、 $\overset{\vee}{V}_7$ ($\overset{\vee}{V}_7$) の諸和音へ進行することが殆どである。(l)

j k l

a: I $\overset{\circ}{V}_7$ VII $\overset{\vee}{V}_7$ I II¹ I² V I
 $\overset{\vee}{V}_7$ (I)
 T S D — T S D T

I $\overset{\vee}{V}_7$ V¹ I I $\overset{\vee}{V}_7$ V⁷ I
 T S D T T S D T

$\tilde{V}_8(\tilde{V}_8)$

§.短調において、各音度上の3和音のうち、長3和音を形成するvii度調については、その同主短調(-vii度調と表記)の属和音を準副Vの和音として用いることがある。(m) 他の長3和音であるiii度調、vi度調の同主短調である-iii度調、-vi度調については、主調の固有音(和音)との摩擦が大きく、殆ど用いられない。

a: I \tilde{V}_8 -VII -II¹ I² V I
 -vii (V₈ I III¹)
 T S D * S D T
 -vii (D T +)

* ...-VII → II¹ の進行はD→Sの進行となるため、ここでは -vii度調 (V₈ I III¹) の転調進行と分析する。
 このことにより $\tilde{V}_8 \rightarrow I \rightarrow III^1$ の連結は $\tilde{V} D \rightarrow T \rightarrow (T)$ となり、-vii調のIII¹ を主調の-II¹ と読み替えて主調への復帰が可能となる。この際、音階固有音からなる II¹ を用いることは、下行変質した ii度音(-ii)と、音階固有音である後続する II度和音の根音との摩擦により不可能である。

$\tilde{V}_8(\tilde{V}_8)$

§.長調と同様にナボリの6の和音についても $\tilde{V}_8 \rightarrow II^0$ の進行が可能であり、準副Vの和音として用いられる。ただし3和音としての形態は、主調のVI度和音と同一形態のため使用しない。

a: I \tilde{V}_8 -II -II¹ I² V₇ I I¹ \tilde{V}_8 -II¹ - I² V₇ I
 -" (V₈ I¹) (V₈ I¹)
 T - S - D T T - S - D T

a: I VI \tilde{V}_8 -II¹ I² V₇ I I VI IV $\overset{\circ}{V}_8$ -II¹ - I² V₇ I
 -" (V₈ I¹) (V₈ I¹)
 T - - S D T T - S T S - D T

課題41. \checkmark 諸和音を除いた副V和音の連結を、与えられたバスを基に試みなさい。

a  b 

C: I $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ VI $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ II¹ V I C: I $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ IV¹ $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ II¹ V₇ I

c  d 

C: I $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ III VI II¹ $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ II¹ V₇ I G: I $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ II V₇ I $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ VI °II $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ V₇ I

e  f 

a: I $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ IV $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ IV II₇ I² V₇ I d: I VI $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ IV¹ $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ VII V₇ I IV₇ V₇ I

g  h 

B: I ° $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ °VI ° $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ °II¹ V I h: I¹ $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ IV V₇ $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ +IV IV₊₆ IV₊₆ +I

i  j 

g: I V₇ VI $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ -VII -II¹ I² V₇ I H: I $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ IV $\checkmark_{\frac{2}{3}}$ II¹ V₇ I

課題42. 次のバス課題を実施しなさい。

1. 

2. 

3. 

課題43. 次のソプラノ課題を実施しなさい。

1. 

2. 

3. 

◇ \checkmark の諸和音（長調、短調）

- §. \checkmark の諸和音は前述の副V和音と同様に属調の属和音として用いられるが属音度上（v度音上）という極めて強力な和音度に解決進行するため、属音度上の諸和音（ V_7, V_9 及び各根音省略形）に進行することが可能である。その際、後続和音が主和音となり得ない3和音以外の形態を持つことにより、 $\checkmark (V\flat - I^{\circ})$ という転調進行にはなり得ず、純粋な副Vの和音として扱われる。
- §. \checkmark の諸和音はii度上に構成されるため、 II_0 和音と同様に II 和音度機能を持つ。
- §. \checkmark の諸和音は後続和音として $I^2 - V_m$ を設定することが可能である。
- §. \checkmark の諸和音の解決に際して、解決和音がVの3和音以外の $V_7, V_9, \checkmark\flat$ の諸和音の場合、限定進行音の増1度進行が可能である。また次例(f)に見られる \checkmark 第3音と、 V_7 第7音との対斜は可能である。
- §. 先行和音から \checkmark へ進行する際、両和音に半音的關係が生じる場合は、その2音を同一声部において連結する。(b) 半音的關係をなす音が2音含まれる場合はその一方を増1度進行させる。(c)

\checkmark, \checkmark_7

(長調)

a b
 C: I \checkmark V I¹ \checkmark_7 V₇ I I I¹ IV \checkmark^1 I² V₇ I
 c d e f
 C: I IV¹ \checkmark_7 V I \checkmark_7 V¹ I I \checkmark_7 $\checkmark\flat$ I VI \checkmark_7 V₇ I

(短調)

- §. 短調の $\checkmark\flat$ の諸和音は、属調のV(V_7, V_9)和音の形態を採るため、第3音と第5音を半音（増1度）上行させる必要がある。 $\checkmark\flat$ の第3音が正規進行する際、後続和音 V_7 の第7音との対斜は許容される。 \checkmark, \checkmark_7 を用いた実施例

a: I \checkmark_7 V₇ I IV₇ \checkmark_7 V I¹ \checkmark_7 $\checkmark\flat$ I² $\checkmark\flat$ V₇ I

♯7 (長調、短調)

§. ♯7 のは第7音を重複した配置を採ることが殆どである。(h)(i)(j)(k) その際、♯7 のバス音は2度下行し、V度またはV₇へ進行する。(a)(b) [♯7 → V_m] その際、重複された第7音は各々2度下行、上行する。連続5度に注意すること。また、I²を経て、V_mに進行することがある。その際、重複された第7音の一方は3度上行し、他方は保留される。(b)(c)(d) [♯7 → I²-V_m] *…アルトの増2度は許容される。(d)

C: I ♯7 V I¹ I ♯7 I² V a: I ♯7 I² V I ♯7 I² V

§. ♯7 のバス音が2度上行し、V_b(^o♯b)に進行することがある。その場合は♯7の第5音を重複し、第7音は2度上行させる。[♯7 → V_b(^o♯b)]

C: I ♯7 ^oV_b I I ♯7 V¹ I a: I ♯7 V_b I

(^o)V₉ 注…基本形のみを扱う。(長調、短調)

§. (^o)V₉ の配置はV₉ の配置と同様に第5音を省略した密集、または開離配置である。配置上の制限もV₉ と同様に第9音は根音の9度以上上方に、また第3音より上方に配置する。ただし第9音が先行和音より予備されている場合は第3音より下方に配置が可能である。短調、及び準固有和音を用いた^oV₉ においては、第3音の下方に第9音を配置することが可能である。

§. (^o)V₉ は上3声がすべて限定進行音のため、後続和音に制限があり、V, V₇, V₃, ♯7へ進行する。V₇に進行する際、第3音は増1度進行となる。V₃に進行する際に生じる対斜は許容される。

C: I V₉ V I¹ a: I V₉ V₇ VI I (^o)V₉ V I¹ I V₉ V₇ VI

$\overset{\circ}{V}_9, \overset{\circ}{V}_9$

§. $\overset{\circ}{V}_9$ の配置については、 $\overset{\circ}{V}_9$ の配置に準じる。

§. $\overset{\circ}{V}_9$ の各限定進行音についても $\overset{\circ}{V}_9$ に準じるが、後続するD諸和音の種類により増1度進行、

または保留する場合がある。 $\overset{\circ}{V}_9 \rightarrow V_9$ の連結においては第7音は常に長2度上行となる。(d)(i)(n)

§. $\overset{\circ}{V}_9 \rightarrow V_7$ の連結における対斜は許容される。(a)(f)(k)

C: $\overset{\circ}{V}_9 \quad V(V_7) \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad I^2 \quad V \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad V^1(V_7) \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad \overset{\circ}{V}_9$

C: $\overset{\circ}{V}_9 \quad V(V_7) \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad I^2 \quad V \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad V(V_7) \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad V^1(V_7)$

a: $\overset{\circ}{V}_9 \quad V(V_7) \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad I^2 \quad V \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad V \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad V^1(V_7)$

§. 先行和音から $\overset{\circ}{V}_9$ への連結に際し、以下の進行が許容される。

(1)外声間の並達5度(第9音高位の $\overset{\circ}{V}_9$ の場合のみ許容) (a)(b)

(2)内声の増2度(短調、及び準固有和音を用いた $\overset{\circ}{V}_9, \overset{\circ}{V}_9$) (c)(d)

C: $I^1 \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad IV \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad a: I \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad I \quad \overset{\circ}{V}_9 \quad I^2 \quad V_7$

課題44.与えられたバスを基に、連結を試みなさい。

a b c d

C: I I¹ V₇ V I¹ G: I VI V₇ V I¹ F: I V₇² I² V I¹ D: I V₇² V¹ I

e f g

B: I V₇⁹ V₇ I II¹ V₇⁹ V A: II¹ V₇⁹ I² V d: I¹ II¹ V₇⁹ V₇ VI V₇⁹ V

h i j k

f: II¹ V₇⁹ I² V cis: I¹ V₉ V₇⁹ I¹ e: I V₉ V₇ VI b: I IV₇⁹ V₉¹

課題45.次のバス課題を実施しなさい。

1.

2.

3.

課題46.次のソプラノ課題を実施しなさい。

1.

2.

3.

変質和音

(1) ♯の和音

◇ ♯の和音 (第5音の下方変位)

§. 長調、短調において、 \checkmark 諸和音の第5音を増1度低めた形態で用いることがある。

§. $\overset{\circ}{\checkmark}$, $\overset{\circ}{\checkmark}$ 等の和音記号で表記する。 \checkmark は第5音省略となるので用いない。

§. 長調において、 \checkmark は殆ど用いない。(j) 準固有和音である $\overset{\circ}{\checkmark}$ を用いる。(k)(l)(m)

▽配置

禁則…下行変質した第5音と第3音を、減3度に配置することは禁じられる。(a)(c)(e)(n)(p)(r)

長調 禁 良好 禁 良好 禁 良好 良好 良好 良好 不良 良好 良好 良好

a b c d e f g h i j k l m

C: \checkmark \checkmark \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 $\overset{\circ}{\checkmark}_7$ $\overset{\circ}{\checkmark}_7$ $\overset{\circ}{\checkmark}_7$ $\overset{\circ}{\checkmark}_7$

短調 禁 良好 禁 良好 禁 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好 良好

n o p q r s t u v w x y z

a: \checkmark \checkmark \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7

§. 連結に際し、下行変質した第5音は2度下行進行、または保留される。

他の限定進行音は \checkmark 諸和音に準じる。

禁則…長調において、下行変質した第5音を後続和音 \checkmark_9 , \checkmark_9 の固有の第9音(vi度音)に進行することは禁じられる。(d) 準固有和音の $\overset{\circ}{\checkmark}_9$, $\overset{\circ}{\checkmark}_9$ に進行させる。

長調 a b c d 禁 e f g

C: \checkmark \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 $\overset{\circ}{\checkmark}_7$ \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7 \checkmark_7

h i j k l m

C: $\overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \text{V}_7 \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \text{I}^2 \text{V} \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \overset{\circ}{\text{V}}_7^{\flat} \overset{\circ}{\text{V}}_7^{\flat} \overset{\circ}{\text{V}}_7^{\flat} \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \text{I}^2 \text{V} \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \overset{\circ}{\text{V}}_7^{\flat}$

短調（長調と同様に連結する。以下に数例を示す）

a b c d e f

a: $\overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \text{V}_7 \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \text{I}^2 \text{V} \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \text{I}^2 \text{V} \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat}$

§. 先行和音から $\overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat}$, $\overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat}$ 和音へ連結する際、内声の増2度音程は許容される。その他の進行については一般原則による。(a)

§. 先行和音から $\overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat}$, $\overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat}$ へ連結する際に生じる対斜は許容される。(減7和音に準じた扱いとなる)(b)

a b

a: VI $\overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \text{I}^2 \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \text{II}_7 \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat} \text{I}^2 \overset{\vee}{\text{V}}_7^{\flat}$

課題47. 次のバス課題を実施しなさい。 $\overset{\vee}{\text{V}}$ 諸和音を用いること。

1.

2.

課題48. 次のソプラノ課題を実施しなさい。 $\overset{\vee}{\text{V}}$ 諸和音を用いること。

1.

2.

(2)上方変位する和音

◇Ⅶ度諸和音の上方変位

§.Ⅶ度諸和音の第5音は必要に応じ、増1度上方変位させて用いることがある。

Ⅶ₈(Ⅶ₈)と表記する。

§.上方変位した第5音は限定進行音として短2度上行する。したがって短調のⅦ度諸和音は解決進行の際、I度和音の第3音と異名同音となるため、転調進行を除き用いられない。

§.Ⅶ₇は3種の構成音すべてが限定進行音となるため4声体和声で用いられることは稀である。

§.Ⅶ₉は5種の構成音すべてが限定進行音となるため4声体和声で用いられることは稀である。

▽Ⅶ諸和音の配置

禁則…上行変質した第5音と第7音を減3度に配置することは禁じられる。(a)(b)

a b

C: Ⅶ₇ Ⅶ₉

▽Ⅶ諸和音の連結

連結の際、Ⅶ₈,Ⅶ₉の第5音以外の限定進行音は固有和音のⅦ₈,Ⅶ₉諸和音の解決進行に準じた扱いとなる。

a b c d e f g h i

C: V I V₇ I V₇^b I V₇ I¹ V₇ I¹ V₇^b I V₇^b I V₇^b I¹ V₇^b I¹ V₇^b I¹

課題49.与えられたバスを基に、連結を試みなさい。

a b c d

C: VI °II₇ V I G: I II₇ A: I¹ V₇ V₇^b I¹ F: I¹ II¹ V₇^b I¹

◇付加和音 IV_{+6} , IV_{+6}^{\flat} の上方変位

§. 長調において IV_{+6} , IV_{+6}^{\flat} の和音の付加音 (ii度音) を増1度上方変位させて用いることがある。

⁽¹⁾ IV_{+6} , $^{\circ}IV_{+6}^{\flat}$ と表記する。(IV_{+6}^{\flat} は準固有和音として用いることが殆どである。)

§. 上行変質した付加音 (2度音) は限定進行音として短2度上行する。したがって短調の IV_{+6} , IV_{+6}^{\flat} の和音は 解決進行の際、I 度和音の第3音と異名同音となるため、用いられない。

▽ ⁽¹⁾ IV_{+6} , ⁽¹⁾ IV_{+6}^{\flat} の連結

C: I IV_{+6} I I $^{\circ}IV_{+6}$ I I $^{\circ}IV_{+6}^{\flat}$ I I $^{\circ}IV_{+6}^{\flat}$ I

課題50. 与えられたバスを基に、連結を試みなさい。

a b

I IV_{+6} I I¹ II₇ I² V₇ I \check{V}_7 IV $^{\circ}IV_{+6}$ I

c d

IV¹ \check{V}_7 I² V₇ \check{V}_7 $^{\circ}IV_{+6}$ I I¹ II₇ I² V₇ $^{\circ}VI$ \check{V}_7 IV_{+6} $^{\circ}IV_{+6}^{\flat}$ I

◇その他の上行変質

§. 3 和音の第5音は原則として増1度上方変位が可能である。ただし上行変質した第5音は上行限定進行音としての機能を有するため、解決進行の際に短2度上行する余裕が必要となる。また \check{V} 部以外の副V諸和音の第5音も同様に上方変位が可能である。

§. すべての上行変質音は節度をもって慎重に用いる必要がある。